

令和7年1月23日発行

# ちば水土里支援会報

NO. 34

特定非営利活動法人

ちば水土里支援パートナー



刑部岬から望む太平洋の日の出

## —目次—

理事長挨拶	1
活動実績	2
NPO法人活動のなり手不足について	2
【寄稿】 第46回全国土地改良大会千葉大会を終えて	3
千葉県土地改良事業団体連合 総務部土地改良大会推進課 長坂崇巳	

## 令和7年 新年あいさつ

理事長 杉野 宏

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。早くも理事長となり2年半が過ぎました。この間、会員の皆様のご理解・ご協力により円滑に会を運営することができました。あらためまして会員の皆様、そして事務局の皆様の理解・ご協力に感謝申し上げます。

さて、農業・農村は、私たちの生活に必要な食料を供給する機能のほか、社会生活の場となる役割など多様な機能を有しており、今後も持続可能な地域資源として守っていかねばなりません。

いま、農業・農村は、人口減少に伴う国内市場の縮小や生産者の減少・高齢化等の課題に直面しているほか、世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや、気象変動、さらには地域紛争等の課題への早急な対応に迫られている中で、昨年6月には農業農村政策の基本である「食料・農業・農村基本法」を四半世紀ぶりに見直し、新たな基本法が策定されました。今年はその改正に伴い関連する土地改良法などの改正に着手しており、もうすぐ具体的な形が国から示されることとなります。今までとはちがう画期的な土地改良政策をとることを期待しています。

令和7年度の土地改良関係予算も昨年末に4464億円で概算決定し、令和5年補正予算2037億円と合わせて6500億円（R6:6240億円）前年比で260億円増の予算が確保されました。

会員の皆様方が活躍されていた数十年前からは大きく減っていますが、土地改良の職域代表として宮崎まさお・進藤かねひこ両参議院議員が、地域の声を確実に農林水産省や政府に届けることで、必要な予算の確保や新たな制度の創設などにより、農業の競争力強化、安全安心な食料の確保、防災・減災・国土強靱化のための予算が確保され、土地改良事業が確実に進められています。お二人のご活躍を陰ながら応援したいと思います。

今年度は、多面的機能支払交付金事業の現地確認調査を土地改良連合会より受託し取り組んでいるほか、地域の土地改良協会の事務を受託し事務局を中心に取り組んでいます。土地改良協会の事務委託も年々少なくなっていますが、要望がある限り取り組んでいけたらと思います。

終わりに NPO 水土里支援パートナーも16年目を迎え、皆様の豊富な経験は、農業・農村の持続的な発展にまだまだ必要ですので、皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、会の益々の発展を祈念して挨拶いたします。

## 活動実績

(令和6年年4月1日～令和7年1月23日)

月 日	活 動 内 容
4月 1日(月)	千葉県耕友会事務処理支援業務受託契約
〃	千葉土地改良協会千葉支部事務支援業務受託契約
〃	安房中央ダム定期点検業務受託契約
〃	利根川流域調節池連絡会事務支援業務受託契約
4月18日(木)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
〃	千葉土地改良協会千葉支部第1回理事会(千葉市)
5月 1日(水)	千葉土地改良協会会議(千葉・市原両支部)(市原市)
5月28日(火)	千葉土地改良協会千葉支部通常総会(千葉市)
5月31日(金)	令和5年度水土里支援パートナー事業監査(土地改良会館)
〃	令和6年度水土里支援パートナー第1回理事会(土地改良会館)
6月 6日(木)	第30回「美しい農村環境写真コンテスト」審査会(土地改良会館)
6月15日(土)	千葉県耕友会総会開催(千葉市)
6月20日(木)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
6月27日(木)	令和6年度水土里支援パートナー第15回通常総会(土地改良会館)
6月27日(木)	令和6年度水土里支援パートナー第2回理事会(土地改良会館)
7月30日(火)	第30回「美しい農村環境写真コンテスト」表彰式(きぼーる)
7月31日(水)	利根川流域調節池連絡会第1回連絡会(柏市)
8月23日(金)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
9月 2日(月)	ちば水土里支援会報 第33号発行 (県行政機関、関係改良区へは訪問して手渡しをした)
10月16日(水)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
10月22日(火)	全国土地改良大会千葉大会参加(幕張メッセ)
10月23日(水)	千葉土地改良協会千葉支部会員視察研修会(大山千枚田他)
11月28日(木)	千葉土地改良協会千葉支部第2回理事会(千葉市)
12月 6日(金)	令和6年度水土里支援パートナー第1回役員会(土地改良会館)
12月18日(水)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
1月20日(月)	多面的機能支払交付金現地確認業務(東庄町)受託契約

## NPO法人活動のなり手不足について

事務局長 兼坂達夫

NPO法人ちば水土里支援パートナー(以下NPO法人)は、平成22年に設立され15年経過し、その間、災害復旧、土地改良区の体制強化、ダムの点検や土地改良協会の事務、農地中間管理事業に係る農地耕作条件改善事業の現場管理、千葉県土地改良事業団体連合会で実施した農業水利施設に係る電力料金の高騰対策支援事業の内容確認、多面的機能支払交付金の現地確認、利根川流域調節池連絡会の事務などの支援業務を行ってきました。いずれの支援業務もNPO会員の土地改良事業の知識、経験、人脈等を活

かし、土地改良区の運営や地域農業に少なからず貢献できたものと思っています。

しかし、現状の NPO 法人の活動については、会員の年齢の大半が 70 歳以上となり、車で現場に行き確認業務を行ったり、パソコンで Word、Excel などを使って支援業務を行うことが敬遠されており、声をかけても他の仕事があったり、介護や健康上の問題で NPO 法人の支援業務を引き受けてくれる会員は限られています。また定年延長などで新規に入会してくれる人は少なく、「業務の依頼があっても活動できる人がいない」状況になりつつあります。支援業務も土地改良協会などの事務支援以外は電力料金の高騰対策など単発的な仕事になっており、継続的で幹となる支援業務がなく、毎年の業務計画を立てるのが難しくなっています。

このような現状ではありますが、NPO 法人に対する期待もあり、土地改良協会の会議などで土地改良区の方から「NPO 法人で土地改良区の事務を手伝ってもらえないか」とか「多面的機能支払い交付金の活動組織の事務をやってもらえないか」などの話はあるのですが、地域に密着した仕事で、その地域に対応できる会員がいないため、現状では NPO 法人で対応するのは難しいと答えている状況があります。

NPO 法人は行政や民間企業で出来ない、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする団体であり、当 NPO 法人の性格上、安定的で継続的な支援業務は行政機関や土地改良区等からの受託業務（事務支援、農業用施設の点検、現場管理、現地確認等）がメインになるので、会員の皆様のご協力をいただき、行政などと意見交換を行い NPO 法人の活用について理解を深めてもらうのが今後の活動に必要なと思っています。

15 年前、先輩達が「土地改良事業にお世話になってきた」ので恩返しとして、土地改良区などの支援や地域貢献、また土地改良 OB の活動の場として NPO 法人を設立したもので、現在 100 名以上の OB の方がその趣旨に賛同され会員となって支援していただいております。現在の状況を理解していただき、今後とも NPO 法人の活動にご支援、ご協力をくださるようよろしくお願いします。

## 【寄稿】

### 第 46 回全国土地改良大会千葉大会を終えて

千葉県土地改良事業団体連合会  
総務部土地改良大会推進課 長坂崇巳

はじめに、NPO 法人 ちば水土里支援パートナーの会員の皆様におかれましては、日頃、弊会の各種業務の執行にあたり、ご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、本年 10 月 22 日（火）幕張メッセにて開催されました「第 46 回全国土地改良大会千葉大会」におきましても、ご協賛をいただいた上、多くの会員の皆様にご参加いただき重ねて御礼申し上げます。



(大会式典の様子)

さて、第 46 回全国土地改良大会千葉大会につきまして、千葉県では初めての開催となりましたが、天候にも恵まれ、お陰様を持ちまして、関係者も含めて 4,620 名の参加

者数となり、盛会裏に終えることができました。

思い起こせば、令和5年4月1日、土地改良大会推進課長の任を拝命し、その重責に気を失いそうになった記憶が鮮明に甦ってきます。

それから大会までの約1年半の日々は、出口の見えない長いトンネルを彷徨っているような、苦悩、苦悶、不安、心配、紆余曲折の毎日でした。

これまで何度か全国大会には参加させていただきましたが、大会主催者側の視点を意識して参加したことはなく、第44回沖縄大会で準備の大変さを肌で感じ、第45回福井大会は、かなり完成度の高い大会だったため圧倒され、同じように大会が開催できるのかという高いハードルを感じながらの準備期間でもありました。

その上、私の段取りが悪く、途中まで弊会内部の準備体制・役割分担が明確にできなかったことや、周りの方に指摘されてから慌てて動く後手後手の対応ばかりであったことにより、弊会役職員の方々にも多くのご心配とご迷惑をかけてしまいました。

それでも、第45回大会を開催された福井県土連の方々にはアドバイスいただいた内容などを踏まえ、千葉大会までは数えきれないほどの内部打合せ、大会開催決定時から全面的にご協力いただきました千葉県庁の皆様方をはじめとする関係機関の方々との打合せ、現地確認及び委託業者との折衝などを重ね、なんとか大会を迎えることができました。



(交歓会の様子)

その準備をしている過程では、あまりの調整事の多さに「大会を成功させなければならない」という使命感が消え、正解が分からず得体の知れないモノに立ち向かっているかのような迷走している感覚となり「とにかく大会が終わればいい」と、モチベーションが大きくトーンダウンしたのも正直な気持ちとしてありました。

しかしながら、最終的には、皆様に大成功と言っていただけるような大会を開催できましたのも、関係者の皆様方のご理解、ご支援、ご協力をいただきました結果にほかなりません。

恐縮ですが、この場をお借りし、関係された全ての皆様方に心より御礼申し上げます。

因みに、その準備期間中に強く感じていたことは、当たり前のようなようですが、全国大会とは「人の調整」の一大プロジェクトということです。

前述しました「多くの調整事」について、突き詰めれば、土連内部や関係機関の方々との打合せも、人員配置や役割分担等の内容が大部分を占め、出演者、ご来賓、県内外の大会参加者、事業視察等の段取りも全て「人の調整」です。様々なお立場の4,600名あまりの方々が、それぞれ違う場所から、違う日程、違う交通手段で大会にお越しになり、それぞれ異なる行動をされるため、思いつく限りのパターンを想定し調整・準備する大変さは、話では伺っていても想像を超えるも



(事業視察の様子)

のでした。

そのため、式典会場や設備等の準備に係るハード面での調整、決定事項も多数ありましたが、全体にしてみるとごく一部のような気がしてなりません。

そう思えるほど、全国大会開催は、「人の調整」に尽きるとつくづく実感しました。

大会開催を通じ、結果として私ができることは微力でしかありませんでしたが、この一大プロジェクトに携わることができたことは、間違いなく大変でしたが、財産です。

特に、大会当日までの迷走期間中、この業務に携わらなければお会いする機会もなかったかもしれない多くの方々と繋がりができたことや、関係機関の皆様と打合せ等させていただく際、多くの方々から「準備本当に大変だね」、「頑張っ」て」と骨身に染みる温かいお言葉をいただけたのも有難い限りで、全てが財産です。

今は、大会が終わり、安堵の気持ちしかありませんが、この先直面するかもしれない困難な局面も、「全国大会の準備に比べれば…」と思えるはずですし、この財産となる貴重な経験を今後の業務に必ず活かさなければならぬと個人的に総括しています。

おわりに、このようなご報告の機会をいただきましたことに感謝を申し上げますと共に、NPO法人 ちば水土里支援パートナーのますますのご発展と会員皆様方のご健勝を祈念し、千葉大会を終えてのご報告とさせていただきます。

### 〈編集後記〉

令和7年は、60年に一度巡ってくる乙巳（きのとみ）の年で、新しい挑戦や大きな転換を迎えるのに最適な年だと言われています。

乙は木のことであり、文字どおり草木の芽吹きや成長していく様子を現わし、新しいことへの挑戦を力強く後押ししてくれます。

そこに、巳である火のエネルギーが加わることで、その勢いがさらに増し、物事が拡大・発展して行くことを意味しているそうです。

本年は、これまで地道に積み重ねてきた努力や準備が、いよいよ形となって現れ始める縁起のいい年です。勢いを増していく木々のように着実に、そしてしっかりと足元を固めていくことで、幸運をしっかりと掴み取ることができるでしょう。

これは個人レベルでも同様で、新しいスキルや知識を積極的に学び、自身の可能性を大きく広げる絶好の機会となります。年を重ね物事を達観された多くの会員には関係ないかも・・・ですが。

一方、社会全体については、これまでとは異なる新しい価値観が注目を集たり、目覚ましい技術革新が起こるなど大きな変化が期待される年となるそうです。（isshi 記）

### ちば水土里支援会報 第34号 (発行日 令和7年1月23日)

発行：特定非営利活動法人ちば水土里支援パートナー(発行責任者：杉野宏)

会員：正会員 109名・19団体 賛助会員 16団体

事務局：〒261-0002 千葉市美浜区新港2-4-9番地8 千葉県土地改良会館別館

Tel 043-241-1755 <http://npochiba.boy.jp/npochiba>

銀行口座番号：千葉銀行本店営業部 3908901 特定非営利活動法人ちば水土里支援パートナー  
理事長 杉野 宏